

泌尿器科

1. 診療科の特色

研修に十分な症例数があり、しかも疾患の偏りが少なく、尿路生殖器すべての悪性腫瘍、尿路結石、尿路感染症、など広範囲におよぶ症例が広く経験できる

2. 研修受け入れ可能期間

1 か月（4 週）以上（相談に応じる）

3. 研修可能な人数

1～2 名が好ましい

4. 研修の到達目標

（ア）一般目標

1. 診療経験を通して泌尿器科疾患の理解を深める
2. 経尿道操作を用いた検査・処置に習熟する

（イ）行動目標

1. 以下の疾患の術前・術後管理ができる
 - ① 尿路生殖器の悪性腫瘍（特に膀胱癌、前立腺癌、腎癌、精巣癌）
 - ② 前立腺肥大症
 - ③ 尿路結石症
 - ④ 尿路感染症
2. 以下の疾患の診断のための検査および治療計画がたてられる
 - ① 血尿（尿路悪性腫瘍）
 - ② 排尿障害（前立腺肥大症）
 - ③ 尿路結石症
 - ④ 尿路感染症
3. 泌尿器科救急疾患の診断と対応ができる
 - ① 尿路結石症
 - ② 尿路感染症
 - ③ 尿閉、腎後性腎不全
 - ④ 急性陰嚢症
4. 経尿道的操作による検査・処置ができる
 - ① 膀胱鏡
 - ② 尿道カテーテル留置

5. 研修スケジュール

(ア)期間内スケジュール

研修期間ごとの目標を以下の表のように設定する

A: 主に主治医（術者）として単独で実施

B: 助手として実施、または指導医の介助のもとで主治医（術者）として実施

C: 見学程度～助手として実施

実習項目	研修期間		
	1～2 か月	3～4 か月	6 か月以上
入院患者の術前・術後管理			
尿路・生殖器悪性腫瘍	B	B、A	A
前立腺肥大症	B	B、A	A
尿路結石症	B	A	A
尿路感染症	B	A	A
外来における診断・治療計画			
血尿（尿路悪性腫瘍）	C、B	B、A	A
排尿障害（前立腺肥大症）	C、B	B、A	A
尿路結石症	B	A	A
尿路感染症	B	A	A
泌尿器科救急疾患			
尿路結石症、尿路感染症	B	B、A	A
尿閉、腎後性腎不全	C、B	B、A	A
急性陰嚢症	C	B	B、A
経尿道的操作（男性患者）			
膀胱鏡	C、B	B、A	A
尿道カテーテル留置	B、A	A	A
尿道カテーテル留置（困難例）	C、B	B、A	A

(イ)週間スケジュール

	AM	PM
月	病棟、外来	検査、処置
火	病棟、外来	検査、処置
水	手術	手術
木	病棟、外来	検査、処置
金	手術	手術

6. その他

(ア)研修後の進路

後期研修医として専門医習得を目指す。

(イ)研修医に望むこと

泌尿器科疾患に興味をもち、手術手技の習得に意欲があること